

平成24年度第3回石狩市行政改革懇話会議事録

日 時：平成24年9月28日（金） 16：00～17：00

場 所：石狩市役所3階 庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	辻 正一	○	（事務局）総務部長	佐々木隆哉
副会長	松尾 拓也	○	（事務局）総務部職員・行政改革担当課長	我妻 信彦
委員	永山 隆繁	○	（事務局）総務部職員担当主査	青木祐一郎
委員	能村久美子	○	（事務局）総務部職員担当主査	古屋 昇一
委員	浅井 秀樹	○		
委員	西野 悦子	欠		
委員	菊地ひろ子	○		
委員	三上 嗣子	○		

傍聴人：なし

【辻会長】

お集まりいただき有難うございます。今年度、第3回の行政改革懇話会を開催いたします。

お蔭様で、レポートは、交換閲覧開始の目途と致しておりました20日には、全グループのものを皆様のお手元に届けることが出来ました。先例のないことを提案いたしましたにも拘らず積極的に取り組みいただきましたことを、厚く御礼を申し上げます。

ところで、どのレポートも内容の濃いものであります。改めて各グループのご努力にお礼を申し上げます。併せて、事務局の我妻課長、青木主査には、ご多忙の中を数多くの質問に対応していただき、ご親切なご指導をいただきましたこと、委員一同を代表してお礼を申し上げます。

さて、本日の目的ですが、一つは各グループのレポートの確認、今ひとつはレポート集にするための「まえがき」「あとがき」の内容の検討です。

では、早速レポートの確認に入ります。

各グループのレポートは、既にお読みいただいておりますので、他のチームのレポート内容について、特に、ご意見をお持ちの方はご発言をいただきます。ただし、当初から申

し上げておりますように、ご意見をいただいた結果、執筆者が積極的に内容を変更することを希望するもの以外は、執筆者の原文を尊重させていただきたいと考えます。その場合でも、ご発言は、議事録に残りますので、行政改革推進本部会議では、その両論を踏まえて、第2次実施計画の検討に活かしていただくことになります。

なお、皆様のレポートの標題の部分は、全体の整合のために番号と文字、配置を変更させていただきました。本文内容、文字使い、レイアウトなどは、原文のままと致します。不整合の点もありますが、それぞれのニュアンスを大切にすることで変更は致しません。

特に指名は致しませんので、とびとびで結構ですからどなたからでもご発言ください。なお、修正する場合には、出来るだけこの場で修正して参りたいと思います。

【浅井委員】

私からよろしいでしょうか。

お気付きのとおり、三上委員と私のチームのレポートは連名になっておりません。お互いに原稿を書き、比較検討したところ、非常に内容の違いが大きく、個別の項目についても隔たりがあり、視点・論点が異なっているので、ひとつにまとめるのが困難であり、あえて申し上げればその必要もないのではないかということで、三上委員に承諾をいただきまして、それぞれで提出する形に致しました。ご了承ください。

【社会長】

その点につきましては、よろしいかと思います。あえて一つにする必要もないかと思います。他の委員のみなさんもお異論はないかと思います。

レポートの内容については如何でしょうか。

【社会長】

特になければ、執筆者原案そのままと致してよろしいですか。

【全員】

結構です。

【社会長】

では、次に「まえがき」「あとがき」の検討に入ります。

まず、「まえがき」ですが、第2回懇話会の資料から、レポート提出に至った内容を記しております。前回の懇話会で決定した今年度の進め方の概要を載せています。

【全員】

結構です。

【社会長】

続いて「あとがき」ですが、お手許の原案はあくまでもたたき台の私案です。こちらの方はあくまでもたたき台ですから、ご遠慮のないご意見をいただきたいと存じます。

【社会長】

たたき台を作った者として若干説明をいたします。二つの段落に分けていますが、前の方は、このレポートに取り組んだ各委員それぞれの姿勢と第2次実施計画策定に活かされることへの願いを、後の方は、市民として行政改革推進への参加の意思を表現したつもりです。どちらも「私たちは・・・」「もっとも・・・」「ただ、私たちは・・・」「そこで・・・」で書き出し、起承転結の平仄を合わせたつもりです。

【能村委員】

私たちの気持ちを表現していただき、ありがとうございます。

「現実に対応しないことは正論ではない」という言葉に表されているとおり、市民が普通に抱く疑問を書いたというレポートの想いが、この言葉で伝わるのではないのでしょうか。

【社会長】

情報、認識が不足しているなかでレポートを書き、考え方も不足している部分があるかと思いますので、そこは謙虚でありたいと考えます。しかし、「正論だが・・・」と言うことで対応は棚上げされても辛いところがありまして、「現実に通じないことは正論ではない、それは間違いである」としていただきたい。そんな考え方を述べてみました。

【浅井委員】

あとがきにありますが、「外部者の率直な意見は、率直であるがゆえに受け手の心情に反し、想定を越える抵抗感を生むことを心配します」にある抵抗感というのは、あくまで市役所内部の抵抗感、もっといえば、市役所の上層部の方の抵抗感という意味で捉えてよろしいでしょうか。

【社会長】

この部分はさまざまな受け止められかたがあるかと思いますが、是非、皆さんで修正いただければと思います。我々の想定を越える受け止められ方と申しましょうか、不毛な抵抗感が生まれて真意が受け止められず、或いは、意見を述べる方も、そのことを斟酌して、そのために率直な意見でなくなる、ということであれば残念という意味です。

はじめは、少し硬い表現ですが「心情的離反」という言葉を使ったのですが・・・。

【松尾副会長】

「抵抗感」という言葉はよろしいかと思います。「受け手の心情に反し」もストンと落ちます。

【能村委員】

「私たちが思っている以上の」、「意図しない」ということですね。
言わなければ改革はできない、ただ、言うとは抵抗感が生まれるということですね。

【社会長】

「想定外」は少し硬くなりますから、「思わぬ」としてはいかがでしょうか。

【松尾副会長】

「思わぬ」でよろしいのではないのでしょうか。

【浅井委員】

よろしいでしょうか。
そもそも、このようなレポート自体が抵抗感を生むと思います。
「外部者の率直な意見は、率直であるがゆえに受け手の心情に反し、『正論であるが現実的でない』と片づけられることを恐れる」と繋げないならば、「思わぬ」で表現するのが穏当かと思います。

【社会長】

それでは、「思わぬ」として整理いたします。

【社会長】

以上で、レポートの確認は終わります。若干時間がありますので、どなたでも結構ですが、今回お取組いただき、何か感想のようなものがあればお聞かせください。

【松尾副会長】

よろしいでしょうか。
当初、このレポートは、行政に提出するという位置付けで公開は想定しておりませんが、議事録と同様に公開してはどうかと思います。
理由としてひとつには、各委員が非常に真剣に取り組んだ成果であるということ。
ふたつめには、このレポートと事務局を通じての行政との対話が、協働のまちづくりとして重要なものであるということです。

このレポートの内容を、そのまま行政に実行してもらうわけではありませんが、今後の行革と無関係というわけでもなく、相互の対話によって行革の取り組みを深化させていく性質のものだと思いますので、そのプロセスを公開することに意味があると思います。

三つめには、手法論として、今回の懇話会の取り組みが非常に画期的なものだと思いますので、同様に行革に取り組んでいる全国の自治体に向けて発信することも意義深いことだと思います。

ただ、非公開を前提に作成しておりますので、委員のみなさんの同意がなければ公開すべきでないと思います。

【浅井委員】

私は公開に抵抗があります。

まず、最初から公表を予定して書いたものでないということ。

また、提言の中には市民感情に反することも書いています。私は正論だと思いますし、確信を持って書いておりますが、ただ、公表することで予期せぬ事態になることは避けたいです。公表を可とする方は公表してもいいのではないのでしょうか。

【永山委員】

ですが、公開されるレポートと、されないレポートがあるという扱いは避けるべきだと思います。

【社会長】

私からも、意見を述べさせていただきます。折角の松尾副会長の提案でもあり、その意味も十分理解できるところです。そのことが行政改革を促進する外部パワーとなることも十分あると考えます。審議会などの一つのモデルを提供することになるかもしれません。

しかし、出来るなら、私としては、当初の方針通り、このレポートそのものを直接的に公開することは避けたいと考えます。理由は、はじめての試みであり当初決めた方針を守りたい、内容についても、公開するにはやはりスクリーニングのプロセスが必要であろう、さらには、我々のレポートはレポートとして独立した評価を受けることが目的ではなく、願いは第2次実施計画の策定に役立てていただくことであるから、真の成果物は、私が良く使う言葉ですが、懇話会と市役所庁内のシンクロさせる作業の中で生み出される第2次実施計画である、などの考え方です。

以上のことから、私は、此处でレポートとして独自に公表し、その結果、市役所の関係者の方々が、万一にも、必要以上に防衛的な心情になるようなことは避けたい。行政改革推進本部において大切な視点と捉えていただき、まず真剣に対応して戴く方を大切にしたいと考えますが、如何でしょうか。

発議者である松尾副会長のご理解をいただければ、その様に致したいと考えますが・・・。

【松尾副会長】

当初予定していないことですから、皆さんの同意がなければ公開しないということで構いません。

【社会長】

皆さんもそれでよろしいですか。

【全員】

結構です。

【永山委員】

ご尽力いただきたいのは、今後、出来れば市役所全体で見えていただいて、あとがきにあるように真摯に検討していただきたい、そのことに力を注いでいただきたいと思います

【社会長】

では、後程、製本し、事務局を通して行政改革推進本部に提出し、第2次実施計画策定に役立てていただくことになります。皆様のお手許にも事務局から最終版をお送りいたします。

庁内検討の結果は、来年2月頃に、第2次実施計画案として当懇話会に諮問され、それを受けて第4回の懇話会を開催する運びになります。

【社会長】

その他のことで、委員の皆さんから何かありますか。

【社会長】

事務局から、何かございますか。

【事務局】

特にありません。

【佐々木部長】

どうもありがとうございました。

これだけのレポートをまとめていただくには、グループ内での協議、文献の調査研究など、相当な精力を傾けていただいたと思います、改めて感服いたしております。

皆さまからいただいたご質問について、十分な回答ができたか分かりませんし、ご質問の主旨と回答が噛み合っていないものもあるかと思います。

また、まだ回答がすべて整っていないものも一部ありますので、もう少々お時間をいただければと思います、力不足をお詫びいたします。

今後は、各部局でレポートの内容を精査し、行革推進本部会議において第2次実施計画の原案を作成いたします。

いただいたレポートについてはその一言一句に捉われず、レポートに込められた主権者としての熱意をしっかりと受け止めて、原案をお示ししたいと考えております。

本当にありがとうございました。

【社会長】

有難うございました。では、散会致します。お疲れ様でした。

【閉会】

平成24年10月11日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 辻 正一